

安全データシート

ジクロロフェン

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: ジクロロフェン
CB番号	: CB9111491
CAS	: 97-23-4
EINECS番号	: 202-567-1
同義語	: ジクロロフェン

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 家畜用抗菌, 抗真菌, 駆虫, 抗原虫剤
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 010-86108875

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

平成24年。政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7版)を使用 GHS改訂4版を使用

健康に対する有害性

皮膚感作性 区分1

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分1

急性毒性(経口) 区分4

環境に対する有害性

オゾン層への有害性 分類実施中

水生環境有害性 (長期間) 分類実施中

水生環境有害性 (急性) 分類実施中

2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

GHS07	GHS09

注意喚起語

警告

危険有害性情報

H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

H319 強い眼刺激。

H302 飲み込むと有害。

注意書き

安全対策

P280 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

P273 環境への放出を避けること。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

応急措置

P391 漏出物を回収すること。

P337 + P313 眼の刺激が続く場合：医師の診察 / 手当てを受けること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P301 + P312 + P330 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。

廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
別名	: Dichlorophene Dichlorophen
化学特性(示性式、構造式 等)	: C13H10Cl2O2
分子量	: 269.12 g/mol
CAS番号	: 97-23-4
EC番号	: 202-567-1
化審法官報公示番号	: 4-87
安衛法官報公示番号	: 7-(4)-580

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

医師に相談する。この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸い込んだ場合、新鮮な空気の場所に移す。呼吸していない場合には、人工呼吸を施す。医師に相談する。

皮膚に付着した場合

石けんと多量の水で洗い流す。医師に相談する。

眼に入った場合

多量の水で15分以上よく洗浄し、医師の診察を受けること。

飲み込んだ場合

意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。口を水ですすぐ。医師に相談する。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用すること。

5.2 特有の危険有害性

炭素酸化物

塩化水素ガス

5.3 消防士へのアドバイス

消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。

5.4 詳細情報

データなし

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

保護具を使用する。粉じんの発生を避ける。蒸気、ミスト、またはガスの呼吸を避ける。十分な換気を確保する。粉じんを吸い込まないよう留意。個人保護については項目 8 を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。環境への放出は必ず避けなければならない。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

粉じんを発生させないように留意して回収し、廃棄する。掃いてシャベルですくいとる。廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。

6.4 参照すべき他の項目

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

安全取扱注意事項

皮膚や眼への接触を避けること。粉じんやエアゾルを発生させない。

火災及び爆発の予防

粉じんが発生する場所では、換気を適切に行う。

衛生対策

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。休憩前や終業時には手を洗う。注意事項は項目2.2を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管クラス

保管クラス (ドイツ) (TRGS 510): 11: 可燃性固体

保管条件

容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。

7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。休憩前や終業時には手を洗う。

保護具

眼 / 顔面の保護

EN166に 適合するサイドシールド付き保護眼鏡 NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。

皮膚及び身体の保護具

手袋を着用して取扱う。使用前に、必ず手袋を検査する。(手袋外面に触れずに) 適切に手袋を脱ぎ、本製品の皮膚への付着を避ける。適用法令およびGLPに従い、使用後に汚染手袋を廃棄する。手を洗い、乾燥させる。

選ばれた防護手袋は、EU指令2016/425の仕様と、それから派生する規格EN374を満たすものでなければならない。

身体の保護

化学防護服, 特定の作業場に存在する危険物質の濃度および量に応じて、保護装置のタイプを選

択しなければならない。

呼吸用保護具

不快物質への暴露には、P95型（US）又はP1型（EU EN 143）呼吸用粒子保護具を使用する。
より高度な保護には、OV/AG/P99型（US）又はABEK-P2型（EU EN 143）呼吸用保護具カートリッジを使用する。NIOSH（US）またはCEN（EU）などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた呼吸用保護具および部品を使用する。

環境暴露の制御

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。環境への放出は必ず避けなければならない。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	結晶(Ullmanns(E) (6th, 2003))
色	無色(Ullmanns(E) (6th, 2003))
臭い	無臭(HSDB (2006))
臭いのしきい(閾)値	データなし。
pH	弱酸(PM (14th, 2006))
データなし。	
データなし。	
700℃ (GESTIS (Access on Aug. 2012))	
4.26(Howard (1997))	
アセトン、エタノールに溶解。(Ullmanns(E) (6th, 2003))	
水:3.00 mg/L (25℃)(Howard (1997))	
1.5g/cm ³ at 20℃ (Ullmanns(E) (6th, 2003))	
データなし。	
0.000000000975 mmHg(25℃)(Howard (1997))	
データなし。	
データなし。	
データなし。	
データなし。	
データなし。	
177-178℃(Merck (14th, 2006))	
融点・凝固点	
177-178℃(Merck (14th, 2006))	
沸点、初留点及び沸騰範囲	
データなし。	
引火点	
データなし。	

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし。

燃焼性(固体、気体)

データなし。

燃焼又は爆発範囲

データなし。

蒸気圧

0.0000000000975 mmHg(25℃)(Howard (1997))

蒸気密度

データなし。

密度

1.5g/cm³ at 20℃ (Ullmanns(E) (6th, 2003))

溶解度

アセトン、エタノールに溶解。(Ullmanns(E) (6th, 2003))

水:3.00 mg/L (25℃)(Howard (1997))

n-オクタノール/水分配係数

4.26(Howard (1997))

自然発火温度

700℃ (GESTIS (Access on Aug. 2012))

分解温度

データなし。

粘度(粘性率)

データなし。

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

データなし

10.2 化学的安定性

推奨保管条件下では安定。

10.3 危険有害反応可能性

データなし

10.4 避けるべき条件

データなし

10.5 混触危険物質

強酸化剤, 強塩基類

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットのLD50値は、1506 mg/kg(雄)および1683 mg/kg(雌)(HSDB (2006))に基づき区分4とした。GHS分類:区分4

経皮

データなし。GHS分類:分類できない

吸入:ガス

GHSの定義における固体である。GHS分類:分類対象外

吸入:蒸気

データなし。GHS分類:分類できない

吸入:粉じん及びミスト

データなし。GHS分類:分類できない

皮膚腐食性及び刺激性

ウサギの皮膚に0.5 mLを24時間適用した試験において、24時間~72時間の観察で紅斑/痂皮のスコアが1~0、浮腫のスコアが0、皮膚一次刺激指数(PII)は0.5であり、本物質は皮膚一次刺激物質ではなかった(HSDB (2006))との評価結果に基づき区分外とした。GHS分類:区分外

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

ウサギの結膜嚢に0.1 gを適用した試験において、極度の角膜混濁、重度の結膜発赤、中等度~極度の浮腫、眼瞼の水疱、血管新生、軽度~重度の排出物、血性排出物、眼周辺の脱毛が認められ、虹彩炎は極度の角膜混濁のため点数化できなかったと記載されている(HSDB (2006))。また、ウサギの結膜嚢に0.1 mLを適用した別の眼刺激性試験でも、24時間~3日の観察期間で角膜混濁、虹彩充血、重度の結膜刺激が観察されている(HSDB (2006))。以上の結果から、眼に強い影響、特に角膜に強い傷害が生じていることから区分1とした。なお、EU分類ではXi; R36(EC-JRC (ESIS) (Access on Aug. 2012))である。GHS分類:区分1

呼吸器感作性

データなし。GHS分類:分類できない

皮膚感作性

本物質は接触アレルギー物質の一つとしてリストアップされ、皮膚炎、発疹、潰瘍などの皮膚病変を有する患者に対するパッチテストで、被験者15人中4人に陽性反応が認められた(HSDB (2006))。10年に及ぶうつ血性潰瘍の病歴を持つ56歳女性がパッチテストで重度の紅斑、浮腫、小胞形成を示した事例、また、4年間治癒しないまいうつ血性皮膚炎と外傷性潰瘍を有する67歳女性がパッチテストで紅斑、浮腫、水疱反応を示し陽性であった事例の報告(HSDB (2006))がある。ヒトでの症例報告が複数あることから区分1とした。また、モルモットを用いた皮膚感作性試験では陽性および陰性の両方の結果がある(HSDB (2006))。なお、本物質は光パッチテストのため一連の光アレルギー物質の中にリストアップされ、光感作性を示唆する病歴のある被験者352人のに行ったパッチテストでは、13人が本物質に陽性反応を示した(HSDB (2006))と報

告されている。GHS分類:区分1

生殖細胞変異原性

in vivo試験のデータがなく分類できない。なお、in vitro試験としてエームス試験で陽性の結果(NTP DB (1988))が得られている。GHS分類:分類できない

発がん性

データなし。GHS分類:分類できない

生殖毒性

データなし。GHS分類:分類できない

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

データ不足。なお、本物質で治療されたかなりの割合の患者に仙痛、下痢、嘔気が現れ4~6時間持続、時に嘔吐を起し、さらに共通の症状として倦怠がみられる(HSDB (2006))。また、無鉤条虫、小型条虫、回虫が寄生した57人の患者の治療に本剤を使用し、副作用として便通促進がみられ、うち15%が嘔気、食欲不振、腹痛を示したと報告されている(HSDB (2006))が、そのため投与を中止する必要はなかったと記述されている(HSDB (2006))ので、症状は軽微とみなされ分類の根拠としなかった。GHS分類:分類できない

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

ラットの90日間混餌投与試験において、本物質投与に関連付けられる変化として、0.5%(250 mg/kg bw/day)群で尿細管のネフローゼと拡張を伴った限局性間質性腎炎、および好酸性円柱がみられたが、0.2%(100 mg/kg bw/day)群では認められなかった(HSDB (2006))。この腎臓の変化の発現用量はガイダンス値範囲を超えており、ガイダンス値範囲上限に相当する100 mg/kg/dayで認められていないので、経口投与に関しては区分外に相当するが、他経路のデータがないため特定標的臓器毒性(反復ばく露)の分類としては「分類できない」とした。GHS分類:分類できない

吸引性呼吸器有害性

データなし。GHS分類:分類できない

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

魚毒性

LC50 - Pimephales promelas (ファットヘッドミノウ) - 0.31 mg/l - 96.0 h

12.2 残留性・分解性

データなし

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壌中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

12.6 内分泌かく乱性

データなし

12.7 他の有害影響

非該当

オゾン層への有害性

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

免許を有する廃棄物処理業者に、余剰物で再使用不可の溶液として処理を依頼する。可燃性溶剤に溶解または混合し、アフターバーナーとスクラバーが備えられた化学焼却炉で焼却する。汚染容器及び包装製品入り容器と同様に処分する。

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）：3077 IMDG（海上規制）：3077 IATA-DGR（航空規制）：3077

14.2 国連輸送名

IATA-DGR（航空規制）：Environmentally hazardous substance, solid, n.o.s. (Dichlorophen)
(Dichlorophen)

IMDG（海上規制）：ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.
(Dichlorophen)

ADR/RID（陸上規制）：ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.

14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）：9 IMDG（海上規制）：9 IATA-DGR（航空規制）：9

14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：III IMDG（海上規制）：III IATA-DGR（航空規制）：III

14.5 環境危険有害性

該当

ADR/RID: 該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）：該当

14.6 特別の安全対策

14.7 混触危険物質

ジ

EHSマーク(ADR 2.2.9.1.10, IMDGコード 2.10.3)5 kg / L 以下で、危険物クラス 9 に該当しないパッケージ

危険物（液体 >5Lまたは固体 >5kg）を有する内装容器を含む、単一容器および複合容器に必要とされる

詳細情報

強酸化剤, 強塩基類

15. 適用法令

該当法規なし

16. その他の情報

略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

【2】化学物質審査規制法（化審法）<https://www.env.go.jp>

【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）<https://www.chemicoco.env.go.jp>

【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHIRP）<https://www.nite.go.jp/>

【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>

[pageID=0&request_locale=en](#)

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。

